

ひとりで 歴史と未来を 見つけること。

4人の卒業生のファインダーから
Find the history and the future alone. From the finder of four graduates.

写真・映像コースでは、ドキュメンタリー
の作品をめぐるシンポジウムを開催します。
会場では、当コース(旧現代美術・写真コース)
の卒業生4名による作品も展示します。
ファインダーを通して世界をつぶさに見つ
め考え続けた彼らが自分の作品について語
り、人権活動家の渡辺毅氏、映像人類学者
の川瀬慈氏という気鋭のゲストを迎えて、
現実をどう見つめるか、そして「社会と個人」
や「ドキュメンタリーとアート」をめ
ぐる終わらない関係について語り合います。

渡辺 毅 Takeshi Watanabe

人権ワークショップファシリテーター、穀雨企画室代表、東
九条マダン事務局長。1965年生まれ。東京育ち。京都大学文
学部哲学科(美学美術史学専攻)卒。劇団主催者、雑誌記者、
編集者、障害者団体サポートスタッフ等を経て、人権啓発
NPO法人職員として人権ワークショップを多数手がける。
2010年、ワークショップ形式の人権講座・研修を企画・運営
する「穀雨企画室」を設立。拠点としている京都府内だけで
なく、大阪府、滋賀県、三重県、福井県、熊本県など各地で
人権ワークショップを提案し、各地から参加者を受け入れて
好評を博している。京都市内最大の在日コリアン集住地域・
東九条で毎秋開催されている共生・協働のまつり「東九条マ
ダン」では事務局長を務めている。熊本市人権協の『ラブレ
ンだより』に人権コラム「きづきの芽」を執筆中。

川瀬 慈 Itsushi Kawase

映像人類学者、国立民族学博物館准教授。1977年岐阜
県生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究
研究科博士課程修了後、マンチェスター大学グラナダ
映像人類学センター研究員、SoundImageCulture(ベル
ギー)客員講師などを歴任。主にエチオピアを中心
に、アフリカの音楽文化に関する人類学研究、ならび
に民族誌映画制作に取り組む。人類学、シネマ、コン
テンポラリーアートの交差点から、文化の記録・表現
の地平を開拓する。代表的な映像作品に『ラリベロッ
チ』『僕らの時代は』『精霊の馬』『Room 11, Ethiopia
Hotel』(イタリア・サルデーニャ国際民族誌映画祭に
て「最も革新的な映画賞」受賞)。共編著に『アフリカ
ン・ポップス!——文化人類学からみる魅惑の音楽世
界』(明石書店)、『フィールド映像術』(古今書院)等。
www.itsushikawase.com

写真・映像コースによる 展示とシンポジウム

日時: 2017年4月29日(土・祝) 14:00 開始

会場: 未来館二階 F201 [入場無料]

京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

主催: 美術工芸学科 写真・映像コース「ドキュメンタリーとアート」実行委員会



早瀬道生 Michio Hayase

1992年、京都府出身。2015年、京都造形芸術大学 現
代美術・写真コース(現、写真・映像コース)卒業。
現在、京都造形芸術大学大学院 総合造形領域在学中。
様々なメディアによりわたしたちに無意識に植え付
けられたイメージの重なりを焦点に写真作品を制作
する。今回は沖縄・高江の警察機動隊を撮影したシ
リートを発表。集約されたイメージでしかない機動
隊の「個」を浮かび上がらせる。



南竜司 Ryuji Minami

1992年、香川県出身。2017年、京都造形芸術大学 現
代美術・写真コース卒業。ある特定の場所に滞在、
綿密なリサーチを行うことでひとつの場所から現代
社会の一辺となる象徴を顕在化させる。それに基づ
き写真、映像、ドローイングなどメディアを問わな
い方法で作品を発表。今回は、福島に滞在制作を行
い放射能汚染を受けた牛を撮影した連作を展示する。



陳宥柔 Yuju Chen

1992年、台湾台北出身。2017年、京都造形芸術大学
現代美術・写真コース卒業。自身の留学による母国
語以外の言語を学ぶ経験から、言葉の歴史や差異に
興味を持ち、制作をはじめ。今回、台湾語の流行歌
が日本語の軍歌へ改変された事実に基づき、日本と
台湾の両国で撮影された映像作品を発表。



森田具海 Tomomi Morita

1994年、京都府出身。2017年、京都造形芸術大学 現
代美術・写真コース卒業。同年、東京藝術大学大学
院 先端芸術表現専攻入学。旅の経験や生活体験か
ら、自身の生きてきた場所と時間について興味を持
ち、写真作品を中心に制作を続ける。ひとつの風景
を大型カメラで撮影することで、そこに堆積してき
た社会的な問題や人々の歴史、物語を再びめぐる。

■未来館 F201 への案内

参加をご希望の方は13時50分にギャ
ラリー・オーブで行われているオープン
キャンパスの美術工芸学科、写真・
映像コースブースにお集まりください。
係りの者が会場までご案内いたしま
す。また途中からの参加も歓迎いた
します。会場が分からない場合は
オープンキャンパス写真・映像コース
ブースにてお尋ねください。

京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス
〒606-8271 京都市左京区北白川
瓜生山2-116

○市バス5系統/銀閣寺・岩倉行き

「上終町京都造形芸大前」下車すぐ

○京都叡山電鉄

『茶山』駅下車 徒歩10分



登壇作家

早瀬道生
Michio Hayase

南竜司
Ryuji Minami

陳宥柔
Yuju Chen

森田具海
Tomomi Morita

特別ゲスト

渡辺毅
Takeshi Watanabe

川瀬慈
Itsushi Kawase

司会

やなぎみわ
Miwa Yanagi



© 早瀬道生 Hayase Michio, 「糸を解く」 2016

ひとりで 歴史と未来を 見つけること。

4人の卒業生のファインダーから
Find the history and the future alone. From the finder of four graduates.

写真・映像コースによる
展示とシンポジウム

4月29日(土・祝) 14:00開始
会場:未来館二階 F201 [入場無料]